

生物農薬ボトキラー水和剤ダクト内投入 によるトマト灰色かび病の防除

園芸環境部 病害チーム TEL:022-383-8125

研究の目的

ボトキラー水和剤はバチルス・スプテリス菌を有効成分とする微生物農薬です。その処理方法として、暖房機のダクト内に薬剤を投入して、灰色かび病を防除する方法が追加されました。その有効性も確認されましたので、新しい防除法として紹介します。

研究成果

ダクト内投入とはボトキラー水和剤を暖房機からでていくダクト内に投入して、送風機を稼働させることによりハウス内に拡散させ、葉の表面に付着させる方法です。そのため、水で溶く散布より省力的で、汚れもほとんどでない防除法です。

1 ダクト内投入の方法

- ①ダクト内にボトキラー水和剤を1日1回10～15g/10a、週5日程度投入します。
- ②暖房機の送風は20分程度でも飛散しますが、より均一に拡散させるためには1時間以上連続稼働させます。
- ③作物上に十分量付着するには、ダクト投入開始から10日程度かかります。

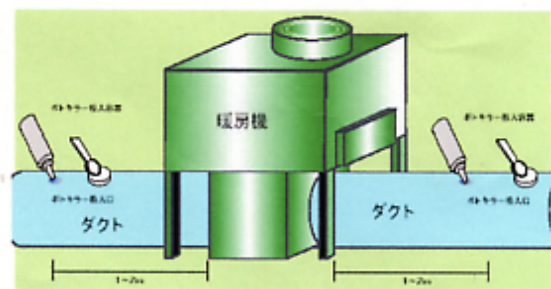
2 利用するときの留意点

- ①菌が作物上の表面に住み着き、病原菌の侵入、感染を阻害することにより防除効果を発揮するので、病気が発生する前から処理することが重要です。病気が発生したときは、化学合成農薬と併用して下さい。しかし、化学合成薬剤の一部はボトキラー水和剤の効果を低下させるので注意して下さい。

トマトの果実における
灰色かび病の発生状況

試験区	発病果率(%)	
	7月12日	8月6日
ボトキラーダクト処理	0.3	0
無処理	2.4	2.9

ダクト処理は5月12日から週5日の割合で行った。



ダクト内投入の処理方法

普及等の見込

減農薬栽培のみならず、省力的な防除として県内の施設栽培している野菜類及び花き類の灰色かび病の防除法として利用できます。

宮城県
農業・園芸総合研究所

宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地
TEL:022-383-8111(代表) FAX:022-383-9907(代表)
ホームページ: http://www.pref.miyagi.jp/res_center/
E-mail: marc-fk@pref.miyagi.jp(代表)